

コード	301030407
記入日:	H22.6.9

事務事業途中評価表

課コード	111
課名	健康保険課
課長名	富永重利
担当者	田坂武久

作成年度	平成 22 年度
------	----------

評価対象事業名称	太田診療所管理運営事務費
----------	--------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 18 年度 ~ 平成 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け			
政策コード	3	政策名称	誰もが安心できる保健・医療・福祉の充実	款コード	5		
施策コード	301	施策名称	健康を守りつくる保健・医療の充実	項コード	2		
基本事業コード	30103	基本事業名称	地域医療体制の充実	目コード	2		
事務事業コード	3010304	事務事業名称	診療所特別会計事業費	細目コード	1049		
関連計画				法令・条例規則等	町立へき地診療所条例		

計画(PLAN) ※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象:誰、何を対象にしているのか		対象指標:対象の大きさを表す指標					
(対象1)	住民	(対象指標1) 438人(対象地区人口)					
(対象2)		(対象指標2)					
事業の概要:具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標:事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)					
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
*****	診療日 毎週月曜日 診療時間 午後1時30分から 診療日数 46日 委託費 5,659,308円	*****	*****	*****	出張診療日数÷出張診療予定日数	*****	
		①	出張診療日数	46日	90%		平成21年度
		(達成率分析)	当初は診療日を51日予定していたが、祝日等で休診となった。				
		*****	*****	*****	*****	*****	
		②					
		(達成率分析)					
目的:何をしたいのか		成果指標:目的の達成度を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)					
常勤医師がいる医療機関まで遠く、利用者が高齢化し、通院が困難な状況であるため、地域住民の負担を軽減する。		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
		*****	*****	*****	受診者数÷当初予定受診者数	*****	
		①	受診者数	757人	97%		平成21年度
		(達成率分析)	前年度受診者数などを参考に、約780人の受診者数を見込み、概ね達成された。				
		*****	*****	*****	*****	*****	
		②					
		(達成率分析)					

実施(DO) ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成20年度以前	平成21年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	
活動指標	① 日	101	94	49	52	45	46				
	②										
成果指標	① 人	1,591	1,583	811	780	772	757				
	②										
総事業費C(A+B)	千円	17,534	11,260	5,734	5,526	5,526	6,274				
直接事業費A	千円	15,434	9,860	5,034	4,826	4,826	5,574				
人件費B	千円	2,100	1,400	700	700	700	700				
内訳	従事職員数	人	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円	2,567	2,124	1,062	1,062	1,062	443			
一般財源	千円	14,967	9,136	4,672	4,464	4,464	5,831				

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	開設者である町が行うべきものである。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	医療業務は重要施策の一つであり、当然行うべきものである。
	事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	委託契約書のとおりであり、適切である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	利用されている方々の負担は軽減されている。
	成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	利用者からの不満等も聞かれなし、これ以上に向上させる理由はない。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	地域住民が医療機関を利用しにくくなり、健康への不安が懸念される。
	類似事業との整理統合はできませんか。	●できる ●できない	理由	単一の事業であるため、他の事業との整理統合はできない。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	医療行為は専門職の業務であり、削減はできない。
	人件費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	必要最小限の人員で行っており、削減はできない。
	受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	受益者は国が定めた医療費を負担している。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ、計画を見直す必要はない。
		有効性	現在のところ、計画を見直す必要はない。
		効率性	現在のところ、計画を見直す必要はない。
		課題に向けた改善策	特になし
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり
		有効性	地区住民の健康維持・管理のためにも医療機関との連携により、引き続き、本事業を継続すること。
		効率性	医療機関との協議により適正に行うこと。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続				類似事業と整理統合
				事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。